

タカネヒカゲハヶ岳亜種の概要

1. 種名（学名）

チョウ目（鱗翅目）タテハチョウ科

ジャノメチョウ亜科

タカネヒカゲハヶ岳亜種

(*Oeneis norna sugitanii*)

2. 環境省レッドリスト 2020

絶滅危惧 I A 類（CR）



3. 種の特徴

成虫は小型（体長約 40mm）。翅表は暗褐色で、亜外縁に眼状紋があるが、本亜種では不明瞭である。裏は、後翅に特徴的なまだら模様がある。北アルプス亜種と比べ成虫の翅の色調が暗い。

本州の高山蝶の中で最も高標高の 2,500m 以上に生息し、幼虫で 2～3 年間を過ごすことが知られている。年によって成虫の発生数に変動が見られる。幼虫の食草はヌイオスゲ（カヤツリグサ科）などで、食草の根元や石の下などで越冬する。成虫は好天時に飛翔がみられ、コバノゴメグサ（ハマウツボ科）、シラネニンジン（セリ科）等の高山植物の花などを吸蜜する。高山の強風下でも飛ばされないように、また日光浴のために身体を横に傾ける行動が見られる。

4. 分布域

本州の八ヶ岳の高山帯のみに分布する。生息地は、八ヶ岳の稜線部のハイマツ帯の風衝地である。

5. 存続を脅かす要因

ニホンジカの食害による生息地の攪乱、吸蜜源の減少、気候変動による生息地の標高及び植生の変化、違法捕獲等

6. その他

- ・長野県希少野生動植物保護条例における特別指定希少野生動植物に指定され、捕獲等が禁止されている。
- ・長野県の天然記念物に指定されている。
- ・通称「ヤツタカネ」と呼ばれる。